

平成 21 年 7 月 15 日発行

第 69 号

発行 日本保健医療行動科学会
〒272-0021 千葉県市川市八幡 2-6-18-501
TEL:047-332-0726 FAX:047-332-5631
発行責任者 谷口文章
編集責任者 朝倉京子、川幡和子(事務局)
郵便振替 00170-2-2052
URL:[http:// jahbs.info/](http://jahbs.info/)

日本保健医療行動科学会
HEALTH BEHAVIORAL
SCIENCE NEWS LETTER

第 24 回日本保健医療行動科学会学術大会を終えて

大会長 谷口文章（甲南大学）

第 24 回日本保健医療行動科学会学術大会が 2009 年 6 月 27 日(土)～28 日(日)に、甲南大学において「ヘルスケアの現在と未来—気づきと行動変容のために—」のテーマの下で開催されました。研究発表 32 件、ポスター発表 23 件、大会初日の 27 日に 175 名、28 日に 212 名の参加者があり、盛会のうちに終えることができました。これもご参加いただきました皆さまのご協力と感謝致しております。

第一日目は、午前中に一般演題・口答発表、午後の部では基調講演「ヘルスケアと医療倫理」(谷口文章)、体験学習ワークショップ①サイモントン療法(田村祐樹氏)、②ナラティブ・アプローチ(中川 晶氏)、③アロマセラピー(相原由花氏)、④ミュージックセラピー(石井豊子氏)が行なわれ、その夜、懇親会が開かれました。

第二日目は、午前の部で一般演題口頭発表、午後よりポスター発表・討論、特別講演「日本におけるグリーンケアの課題」(高木慶子氏)、シンポジウム「気づきと行動変容のために」では、元村直靖氏・任 和子氏がコーディネータをされるなか、「グリーンケア—悲しみに寄り添う—」(坂口幸弘氏)、「いのちの自立への支援を問う」(内藤いづみ氏)、「笑いとお話—いのちの治癒力—」(西松央一氏)、「こころは egao になれたかな?—小児科ボランティア活動における気づき—」(神田美子氏)によって活発な議論が展開されました。

アンケートには、基調講演に関して「哲学を、生きることをめぐって生活・環境から具体的に考えるという視点を知ることができました」、「もの見方が一面的になっていないか、再確認できる場になりました」、ターミナルケアだけでなく、阪神淡路大震災の体験もふまえた特別講演に関して「高木先生のお話は心に滲みて、来た甲斐があった」、「ケアする人がケアされる人と同じ気持ちになることが大切だということがよく分かりました」、シンポジウムに関して「在宅ホスピス医の内藤先生の話にとっても感銘を受けました」、「内藤先生のお話でターミナルの患者さんと家族の看取

りをVTRで見て感動しました」、「西松先生のお話は笑いが生き方に結びついていて楽しかった。大いに笑わせていただきました」、「高木先生、坂口先生、内藤先生、西松先生、神田さんの話を聞いて現場が大切ということを再確認できました」、大会全般に関して「多様な領域の研究発表があり、視野が広がったことと、他領域の人との交流があり有意義でした」、「素晴らしい実践をなさっている方々に出会い、今後勉強する際の手がかりを得ました」、「研究の成果を社会に還元することと同時に、認定行動科学士の養成を広げていくことは、社会的にも期待されていることと思います」など、多数のご感想やご提案をいただきました。

懇親会では無農薬の旬の野菜が大好評で、「本当の野菜の味を実感することができた」、「健康な生命を育むには健全な生命の環境が必要であることを感じることができました」という声も寄せられました。

それぞれのセッションは予定以上の成果をあげることができました。とくに印象に残りましたのは、高木先生のグリーンケアに対する姿勢と、お話しぶりがまさにナラティブそのものであるということでした。また内藤先生の看取りの具体的な VTR によって、ヘルスケアの究極の雰囲気を感じることができました。近い将来、それぞれの先生方を交えまして、お話いただく機会を、また持つことができればと感じる学術大会となりました。

今回、成功裡のうちに大会を終えることができましたのも、参加者の皆さま、理事・実行委員の諸先生方のお蔭でございました。心より感謝申し上げます。

第24回大会に参加して—所感

2009年6月27・28日に神戸市にある甲南大学岡本キャンパスで行われた、第24回日本保健医療行動科学会学術集会に参加しました。今回、初めて参加させていただきましたが、学会発表や体験学習ワークショップなどを体験する中で、発表者や聴講者の真剣な討論や眼差しを強く感じました。また、発表・講演者と聴講者が身近に討論できることから、「参加し、そして学んでいる」と感じられた学会でもありました。

また、今回の大会長である谷口文章先生の基調講演では、「ヘルスケアと医療倫理」のテーマについて聞かせていただいた。講演では、途中素敵なおピアノ演奏なども聞くことができ、聴講者を和ませていただきました。その講演の中で特に印象的な言葉として、「ケアされる人もケアする人もともに成長する。希望に向かって1歩1歩進んでいく、そしてケア教育に繋げていく」という谷口先生の言葉がとても印象的でした。医療者としての学際的な学びに加え、人間の生き方という視点からの学びもあった、貴重なお話を伺うことができました。

親睦会では畑から取り立ての手作り野菜を頂けるなど、終始和やかな雰囲気の中、様々な研究者の方との交流を深めることができました。

今回、このような学びの機会を与えて下さった大会長である谷口文章先生、学会関係者の皆様にお礼申し上げます。来年度の学術集会は岡美智代先生が大会長で、群馬県で行われますが、来年も様々な研究領域の先生方との交流を通じて、医療者として、人間としての成長に繋げていきたいと思っております。

(恩幣宏美：群馬大学医学部保健学科)

